

## 会 議 要 録

会 議 名		令和6年度 第4回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和7年3月19日（水）午後1時30分～午後3時00分
場 所		小平市役所5階 505会議室
出席者等	委 員	11名（欠席者6名）
	事務局	こども家庭部長、子育て支援課長、生活支援課長、子育て支援課こども・若者支援担当係長
傍 聴 人		2名
会議内容	1 開 会 2 小平市こども・若者の意識・実態調査結果について 3 これまでに実施した意見聴取について 4 情報交換・意見交換 5 閉 会	
配付資料	・会議次第 ・席次表 ・第41号こだいら保護司だより ・「社会を明るくする運動」作文集ひまわり 第45号（令和6年度）	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

2 小平市こども・若者の意識・実態調査結果について

事務局	<p>報告書の3ページ、1. 調査実施の目的 2. 調査の内容 3. 調査項目、4ページ、4. 回収結果は資料のとおりである。</p> <p>報告書の作りは年代ごとに分けておらず、高校・学生一般の設問に、小学校5年生・中学校2年生の共通項目や関連項目を記載している。主な調査結果を説明する。</p> <p>14ページから17ページ、72ページは自分のことについての設問では、こども大綱に数値目標のある項目で、「自分には自分らしさがある」「困ったときは助けてくれる人がいる」「自分の将来に明るい未来をもっている」「自分のことが好きだ」について尋ねたところ、算出の仕方に違いはあるものの、小平市の状況で大綱の現状数値より高かったのは「今の生活に満足している」で、他は現状数値と同程度かそれ以下であった。</p> <p>自由な時間の過ごし方と遊びの内容に関する設問で、25ページの高校生年代と学生・一般の「自由な時間の過ごし方」は、前回調査と比較すると、割合が増えた項目は、「パソコンや携帯電話を利用する」「ゲームをする」で、学生一般は「ラジオや音楽を聴く」であった。逆に割合が減った項目としては、「テレビを見る」「本を読む」「買い物に行く」で、両方の年代で「テレビを見る」の減が大きく、学生一般では「買い物に行く」が大きく減となった。27ページの小学校5年生・中学校2年生の「何をして遊ぶか」では、小学校5年生のほう中学校2年生より多いものとしては「スポーツや体を使う遊び」「公園の遊具」の体を動かして遊ぶもののほか、「家庭用ゲーム機等で遊ぶ」となった。中学校2年生のほうが多いものとしては、「DVD、ユーチューブなどの動画を見たり、オンラインゲームをする」「友だちなどのおしゃべり」「スポーツや体を使う遊び」となった。DVD、ユーチューブなどの動画を見たり、</p>
-----	--

オンラインゲームをする」は、小学校5年生・中学校2年生とも最も多い割合だが、中学校2年生のほうがより割合が高くなっている。

34ページからのハラスメントの経験とクロス集計表については、各項目の中で、嫌のことの経験として最も多いのが「暴言や傷つくことを言われた」であった。無視、いじめ、暴力は年齢が上がるごとに割合が減っている。35ページの各年代、性別ごとのクロス集計表では、小学校5年生では「叩かれたり、蹴られるなどの暴力をうけた」は男性のほうが女性より割合が高くなっており、中学校2年生では「傷つくことを言われた」は女性のほうが男性より割合が高くなっている。36ページの高校生年代では、「暴言や傷つくことを言われた」は女性のほうが男性より割合が高くなっている。学生一般となると、男性と女性の大きな差はみられなくなっている。また、35ページから36ページを通じて、性別が「どちらでもない、答えたくない」を選択した人の「特にない」の割合が低く、「傷つくことを言われた」「その他」の割合が高くなっている。

学校生活、学校生活で不満に思うことの設問では、37ページの高校生年代・学生一般の学校生活の満足度は、前回調査と比較して大きな差はみられなかった。一方、37ページで「やや不満」「不満」を選択した人に38ページで「不満の内容」を聞いたところ、前回調査より割合が増加しているのは、両年代で「学校の規則のこと」で、高校生年代では「友だちのこと」、学生一般では「先生のこと」となった。一方、割合が減っているのは、高校生年代で「部活動やクラブ活動のこと」「先生のこと」で、学生一般では「授業の仕方や科目、教わる中身のこと」であった。

39から41ページ、学校の愛好度とクロス集計表に関して、小学校5年生・中学校2年生では、「とても好き」は小学校5年生が中学校2年生より割合が高くなっている。学校の愛好度と14から17ページ、72ページの「自分のことについて」のクロス集計表では、「自分のことが好き、自分らしさがある、困ったときは助けてくれる人がいる、自分の将来に明るい希望をもっている」いずれの項目でも割合が高いほど学校の愛好度が高くなっている。自尊心が学校の愛好度等に影響していることがわかる。

48・49ページのヤングケアラーのうち及んでいる影響についてである。48ページの「大人にかわって家族の世話をすること」では、各項目で特に小学校5年生・中学校2年生の割合が高く、食事の準備、掃除、洗濯は高校生年代、学生一般でも約10%となっている。こども大綱別紙2「こども・若者、子育て当事者の置かれた状況等を把握するための指標」に掲載の「「自分はヤングケアラーに当てはまる」と思う人の割合」の現状では、中学校2年生1.8%、全日制高校2年生2.3%、大学3年生2.9%で、比較すると小平市の割合がかなり高いことから、「※ヤングケアラーとは、大人に代わって家事（食事の準備・掃除・洗濯）や家族のお世話をすることのことである。」という注意書きを入れたものの、ヤングケアラーと普段のお手伝いの差がわかりにくかったのではないかと考えられる。49ページの及んでいる影響では、各年代で最も多いものが、小学校5年生では「友だちと遊ぶなど自分の時間がない」、中学校2年生・高校生年代では「宿題など勉強する時間がない」、学生一般では「自分の時間がない」となっている。

57ページの厳しいしつけに対する考えについて、各年代では「どんな理由があっても、叩いたりしてしつけるべきではない」が最も多くなっているが、年代が上がるごとに「どんな理由があっても、叩いたりしてしつけるべきではない」の割合は減少し、「しかる理由がはっきりしていれば、ある程度たたいてもかまわない」の割合が増加している。

62ページの仕事を選ぶ際に重視することでは、前回調査と比較すると、増加している項目は、高校生年代で「給料が高いこと」「残業や休日出勤が少な

	<p>いこと」「職場の雰囲気や人間関係が良いこと」で、学生一般では「給料が高いこと」「職場の雰囲気や人間関係が良いこと」「希望の勤務地で働くこと」となっている。逆に減っている項目は、高校生年代では「正社員・正規職員で働くこと」となっている。学生一般では大きく減っているものはない。</p> <p>73・74ページの自尊感情クロス集計表について、自尊感情を安息の場所の個数別にみると、「自分のことが好きだ」の「そう思う」、「まあそう思う」の割合がおおむね高くなるほど、全年代で落ち着く場所の個数が多くなっている。一方、「自分のことが好きだ」の「そう思わない」の割合が高いほど、落ち着く場所がないを選択した人が多くなっている。74ページでは、自尊感情を性別で見ると、小学校5年生から高校生年代までは、女性より男性の方で自尊感情は高くなっているが、学生・一般となると差はなくなっている。</p> <p>90から94ページの子育て願望だが、とうきょうこどもアンケートの17歳の結果と高校生の結果を比較すると、「こどもを育てたい」の割合の中でも2人以上育てたい割合と「こどもを育てたいとは思わない」の割合が高く、「まだわからない」と回答した割合は低くなっており、小平市のほうがこどもを育てることについて、より具体的に考えていることがわかる。</p> <p>105ページからの関係機関向け調査のうち、108ページ、相談内容についてだが、民生委員では「子育てに関すること」「社会資源（サービスや支援）に関すること」「進路と将来に関すること」の順で多くなっている。青少年委員等では、「交友関係に関すること」「子育てに関すること」「その他」の順となっている。110ページ、こども・若者、保護者の抱えている問題についてだが、民生委員では「不登校」「ひきこもり」「発達障がいに関すること」の順となっている。青少年委員等では、「発達障がいに関すること」「不登校」「有害な環境・情報の氾濫」の順となっている。116ページの地域社会に求められることでは、民生委員ではそれぞれの選択肢について、ほぼ同程度となったが、「こども・若者が居心地の良い場所があること」「同じような悩みを抱える親同士の話し合いの機会があること」の順となっている。青少年委員等では、「こども・若者が活躍できるような機会がたくさん用意されること」「こども・若者が居心地の良い場所があること」「定年退職した人などの技術や知識をこども・若者に還元する機会を提供すること」の順となっている。</p> <p>118ページから、こども・若者、子育て世代への施策を考えていくうえで大切なことの自由記述では、悩んでいるのは自分だけ…等孤立しないですむ相談しやすい仕組づくりが必要。生涯を通じて生きづらさを抱える人に寄り添うことのできる体制を望みます。などがあげられている。</p>
委員	調査結果の取りまとめの中で、差がある、差がないと記載する基準は。
事務局	数値で差が5ポイント以上あるものは差がある、差がないと記載をしている。
委員	調査結果の回答の中で、相談先がわからないと選択した割合が多かったように思う。いろんなパンフレットが出ているが、提供先を改善していく考えはあるか。親向け以外に学校を通じてこどもたち全員に配る工夫など今後検討してほしい。
事務局	若者応援ブックなど、定期的に一定の年齢に配っているが、配架場所については工夫していきたい。今回意識・実態調査の依頼文の裏面に相談先を掲載する工夫をした。

委員	<p>高校生年代・学生一般で意見の伝え方がわからないと回答があるが、SNSなどを活用する事例はあるか。</p> <p>情報の受け取りやすさでいうと、LINEだと能動的に市にアクセスしようとする人しか情報を得られないと感じる。Xであると、個人的には情報が見にくいと感じることがある。部署ごとに発信するなど、広く情報発信する仕方を工夫してほしい。</p>
会長	<p>アンケート結果を見ると、自由な時間の過ごし方でテレビを見るが減り、インターネットをする時間が増えるなど、情報へのリーチの仕方が変わってきている。</p>
事務局	<p>これまでも小平市公式LINEやXで発信しているが、機会を見て工夫してこれからも発信していきたい。</p>

### 3 これまでに実施した意見聴取について

事務局	<p>①から⑬まで意見聴取を実施し、対象としては小学生、中学生、高校生、大学生、子育て世代など、実施形態は対面ではグループワーク、授業演習、タウンミーティングなどを行った。それ以外ではアンケートやシール投票を行った。</p> <p>このうち、子育て支援課で対面にて実施したものを説明する。①令和6年度小川西町公民館事業企画委員会事業の、子育て支援講座第1回目では、子育て支援課の職員が講座とグループワークを実施した。対象者は子育て世代と子育てに関係のある方で、15名であった。</p> <p>講義内容は子ども・若者計画、(仮称)小平市こども計画についてで、グループワークのテーマは「幸せだと日々感じる生活とは」とした。そこで出た意見では、家庭環境については親が幸せであることはこどもの幸せにつながる、こどもの環境としては、学校で安心して過ごせていじめがなく、個性に合った環境があることが、幸せだと感じる生活ではないかとのことだった。</p> <p>⑥令和6年度第2回市民と市長のタウンミーティングを、小川町二丁目児童館で実施し、児童29名と市長が意見交換した。市長から児童館や学校・公園など、こんなのがあったり、こういうふうだったらいいという楽しいアイデアを聞かせてくださいと声かけした。寄せられた要望としては、児童館にはWi-Fiを設置してほしい、マンガや本を増やしてほしい、サッカーボールを使える公園やグラウンドを増やしてほしいといったものであった。</p> <p>⑧武蔵野美術大学に出向き、市の課題に関する報告会の授業の中で、11月から12月にかけて、クリエイティブイノベーション学科の学生5名に対して、テーマを「若い世代が、市に対して自分たちの意見を伝えるためには、どのような手段が有効か」について、二つのグループにわかれて調査研究をしてもらった。一つ目のグループの提案は、ラジオ放送を活用して意見表明だと伝えやすい、また伝わりやすいのではないかと。理由として、市職員と対面で話をするすることで市職員と対面で話をする中で自分の意見を伝えやすかったと感じた。このことからメールとラジオであるとどちらの方が有効かという調査をしたところ、ラジオで回答した人の方が多かった結果となった。この結果を基に、事前収録した番組で、具体例を示しながらラジオを活用する提案をしてもらった。こちらを受けて、市として早速4月に実現ができそうであり、学生からの意見を受けて実行に移すようなことを考えている。二つ目のグループの提案は、他の大学と交流をして意見交換を行いながら、市に対して提案を行う授業の開講というものだった。大学生を対象に市のことについて考える授業やイベントに参加したいかを調査したところ、特に市のイベントに参加したことがある学生や、人と関わることが好き、新しいことにチャレンジすることが好きと</p>
-----	---

	<p>回答した学生に、より参加したいと回答した学生が多かったという結果からであった。地域の問題に関する対話型授業を実施して、その中で市に対しての意見を提案し、他大学の学生の交流により新たな気づきを得たり、市職員と話し合うことによって、市に対する関心を高めると同時に、自分の意見を言いやすくなり、また意見が反映されやすくなるメリットがあるとの考察であった。</p> <p>⑨本協議会委員の校長先生に協力をいただき、小平第四中学校の生徒会の生徒にグループワークで意見聴取を実施した。一つ目のテーマは「普段思っているということ、感じていることを教えて」であった。意見として、小平市の良いところは自然が多く残っているところ、図書館のようなこどもが安心して過ごせる場所があるところという意見があった。良くないところとして、ボール遊びができる場所が少なくなってしまった、今後より良くなるための意見としては小平市で行っているイベントをもっと周知してほしいということだった。もう一つのテーマ、「普段人と話をしていて嫌だなと思うことってどんなこと」については、大人数でいるときに声の大きい人の意見が通りやすく、手を挙げていても自分の意見が反映されない、発言するのが怖い雰囲気があることもあるというような意見が出された。</p> <p>⑩本協議会委員の校長先生に協力をいただき、都立小平西高等学校の生徒会の生徒にグループワークで意見聴取を実施した。テーマは⑨と同じで、小平市の良いところとしては人が多すぎない、あたたかい感じの人が多、市民のつながりがある感じとのことであった。良くないところとしては、若者向けの施設が少ない、施設の老朽化、買い物をする場所が少ないなどが挙げられた。もう一つのテーマで、普段人と話をしていて嫌だなと思うことは、否定ばかりしてくる、自己主張が強すぎる、自分の意見ばかり言うてくる、反応してくれないということが挙げられた。対応策としては、グループの活動の中でグループリーダーのような中心的な人に声をかける、自分と同じ意見の人を見つけて共感してくれる人を探して雰囲気を作っていくという意見が出された。</p> <p>それぞれ中学校と高等学校の校長先生に協力をいただいた。本日は欠席であるが、この場でお礼を申し上げる。</p>
委員	母集団の大きい意識・実態調査と、小さい意見聴取を実施しているが、今後の意見の活用方法は。
事務局	主に意識・実態調査の対象から外れている年代に対して実施しているので、補完するような位置づけとなる。これからの計画策定に盛り込んでいくことを考えている。
会長	<p>一つ目が、武蔵野美術大学学生の提案であるラジオ放送はどのようなものを実施予定なのか。これに関し、広報ができるといい。表明した意見が反映されているということがわかるといい。</p> <p>二つ目が、対面による聞き取り調査と、広く実施したアンケート調査を実施して、それぞれのメリットとして感じたことは。</p>
事務局	<p>一つ目は、ラジオ局に学生に来てもらい、市の有志職員が行っている番組に出演して意見交換する形で実施予定である。内容はこれから詰める予定である。市職員向けには広報を考えている。一般向けには、広報手段を考えていきたい。</p> <p>二つ目は、オンライン等で広く実施したアンケート調査では、普段言えないようなセンシティブなことも回答しやすいのだろうと感じた。聞き取りによる調査は、話しやすい雰囲気があれば、自分の意見を発信することができてうれしかったという意見や、普段「嫌だと思ったことは何か」というテーマで意見を聴いてもらえることがないので、聴いてもらえる場があつてうれしかった、</p>

	生徒会のほかのメンバーの意見を聴いて、こういった考えを持ったメンバーと今後一緒に活動ができることが楽しみになった、といううれしい感想があった。
会長	意見表明に参画することがうれしかったという意見があったことを発信すると、この取組に意味があることを発信していくことにつながると感じた。声として伝えてほしい。
事務局	計画策定の中で、こういうところに意見が反映されたとわかるような形にしていきたいと考えている。
委員	小平第四中学校の意見を聴く場に出された意見を聴いて、「そういうことって思うよね」と共感できた。自己肯定感が低いことや、本当に心の中の思いを言葉にしてくれているなと思った。これを活かして自己肯定感を高めていけるようなものと良いと感じた。小さいことを拾って声に出してみても、言ってもよかったと思えるようなことがあるといいと思った。今回の意見を拾っていく機会はあるのか。
事務局	これだけ多くの意見を表明してもらっているので、計画策定の過程で生かしていきたいと考えている。
委員	⑩こどもの権利に関するシール投票に関して、参加者は未就学児が多かったのか。子どもの権利条約の説明を学校で行っているのかわからないが、未就学児と就学児ではまた大事だと思う権利について、意見が違うのではないかと、興味がある。今後もこうした取組を行っていく予定はあるのか。他市でこどもの権利条例があるので、ひょっとしたら小平市でも、と期待している。今回のシール投票で、こどもの権利を知っていると答えたこどもが思っていたよりも多かった。
事務局	今後も様々なイベントを行う機会があるので、形を検討しながら実施していきたい。
会長	今回のシール投票が、シールを張ったこどもたちが「こどもの権利」を考え、知る機会になっているのがうれしい。

#### 4 情報交換・意見交換

委員	実態調査の結果、説明で、改めてこれをどう生かしていくのかが大きな課題だと思う。社会的擁護の中でこどもたちと関わっているが、今回の調査では虐待やヤングケアラーなどが出てきており、こども自身にとってはとてもデリケートなことなので、大人が知って、できることをやると同時に、こどもたちが知るということに難しさを感じている。10年20年後には大人になるこどもたちがどのように成長していくのか、またどうすることができるのかという思いを持っている。市のレベルであると難しい面もあるが、置かれている立場の狭い範囲の中で、大人ができることをしていくと変わっていく部分があるのでは。この3月に自身の施設を卒園していくこどもたちに、将来に向かって進学など前向きに取り組む子が多く、進学率も上がっている。安心、安全であることや、環境を整えてあげればこどもたち自身がちゃんと進路を見つけていける。環境をマイナスからゼロにすれば、こどもたち自身にはプラスにしていける力があるので、大人がそれぞれの場で取り組んで行くことが大事。
----	---

委員	<p>調査結果を見て、関係団体の有効回収率が50パーセントに行かず、残念だった。こどもたちの調査結果を見て、いろんな意見を持っているんだろうな、具体的なことにもちゃんと答えてくれていると感じた。聞かないと答えないというのは当然である中で、ハラスメントを受けるこどもの側が、どのように思っているのかが形になっているのがよかった。相談先の周知から、きちんとつなげていければよい。何をするためにアンケートを取るのか、こどもたちにきちんと説明してから実施するのが大事。こどもたちはきちんと意見を持っていることが良く分かった。</p>
委員	<p>こどもたちは素直に答えていると思う半面、あくまでアンケートなので、型にはまった回答内容だけだと思う。数字の中には隠れたものがたくさんあると思っている。関わっている子には、「お母さんは好きだけど嫌い」という気持ちもある場合もある。それから犯罪に走ってしまうこともある。一律にアンケートの結果からは判断できないこともあり、この結果で「小平市は安全だね」とは捉えないほうが良い。対面の意見はせっかく活きた意見であるので、広報をきちんと共有することに生かしてほしい。健康的なこどもであっても、恐怖を感じると、肌が荒れたり、目をぱちぱちしたりする子が増えているように感じる。親などによく観察してもらって、こどもたちが信号を出しているのを感じてほしい。</p>
委員	<p>青少年委員の活動の中に、青少年委員リーダー養成講座があるが、自分たちの活動内容の中心は主に小学生で、限られた年代が多かった。さらに広い年代を含めた調査結果を見て、自分が小さい時よりも今は社会が緻密で複雑になっており、こどもたちに鬱積しているものもより複雑化してきている。こういった気持ちをしっかり解きほぐしてあげることが大事だと思った。今回の調査がとても有効であるのと同時に、結果をどう生かしていくのかが重要である。自分の活動にも生かしていきたい。</p>
委員	<p>これだけのアンケートをまとめるのに労力が要ったと思う。アンケート結果の中でも見えない箇所や、数値が多い、少ないということだけでなく、相談相手がいらないなどと回答した人をどうやって救っていくのかというところが大きいと感じた。地域の中にも手伝ってもらえる人はいると思う。市からも色々と発信していると思うが、地域の中でどのようにお手伝いすればよいのかわからないという方や、情報の得方がわからない人もいる。自分の気持ちをオープンにできることや、若い人たちが「生きるって楽しい」と思える機会を、人の掘り起こしをすることにより、地域の細かい単位で作っていくことができるのではないと思う。時代がどんどん変化し、多様化していくので、ぜひ若い方の意見を取り入れて発信していき、みんなが地域で関われる小平になってほしい。</p>
委員	<p>2年間を通じて、本協議会に参加していないとわからないこどもたちの現状や、市の取組を知ることができてよかった。長い時間をかけて調査や意見聴取をしてきていると思うが、これからの施策の前段階だと思うので、これからが重要になってくる。若者は身近な人への相談がメインになるが、そこではどうしようもない専門的なこと、力を借りたいこともあるので、市の相談機関など、わかりやすく広報してほしい。実態調査を踏まえて、こういうことがあったからこういう風にしました、というのをわかりやすく周知してもらえると嬉しい。すべて受け身でもいいけないので、若者からも情報収集しないといけないと思った。</p>

委員	<p>若者世代のこどもがおり、地域社会の発展のためにさまざまな取組を知ることができて勉強になった。今日は中学校の卒業式だったが、不登校で中学校の卒業式に出られない子が数人いて、小学校から知っているのでもとても悲しい気持ちになった。そういう方たちをサポートできるような場があると、同級生の保護者として安心してこどもたちを見守っていけると思った。</p> <p>小学校の放課後コーディネーターをしているが、これからも関わっている子たちが安心して成長できるお手伝いを続けていきたい。</p>
委員	<p>自身のこどもが今回のアンケートに回答し、学校で一斉に行ったので回答しやすかったと言っていた。回収率も高かったので良かった。年齢が高くなると回収率が下がるのは残念であった。73ページの落ち着く場所があると自分のことが好きという結果があったが、こどもが安心して何かやってみようと思う気持ちになる環境を作るために、母として居心地の良い場所を作ることは大事だと思った。また、意見聴取の場では、参加者がとても楽しそうだと感じた。楽しい状況を作ると意見が言いやすいと思った。</p>
委員	<p>意見の言いやすさと、自分の意見がどう反映されているのか見えるのが大事だと思った。今回の意見聴取の中で、生徒会の意見聴取が良いと思った。若者世代では日頃SNSの使用が多い現状の中で、SNSは大事なツールではあるが、対面での意見表明が本当に思ったことなのではないかと思うので、対面での取組を増やしていくのが大事なのでは。</p>
委員	<p>(仮称)小平市こども計画の策定する上での基礎資料となる意識・実態調査に関わることができて光栄だった。今後この調査結果を基に計画が策定され、こどもが健やかに成長し、将来にわたって幸福が実感できる社会となることを期待している。</p>
会長	<p>それぞれの立場の人が本協議会という一つの場に集まって協議をすることがとても大事だと感じた。自身の立場からすると、学校の愛好度と自己肯定感が関係していることから、学校教育は改めて大切にしていかなければいけないと感じた。それぞれの立場でアンケート結果を考えてもらったのでは。</p> <p>また、動くことの大切さを感じた。アンケートを行ったことにより、こどもたちも考える機会になり、大人も実態を見ることができるようになった。考えることも大切だが、実際に動くことが大事だと改めて感じた。小平市では、特別活動の日の中で、小中学校できちんと意見表明に取り組んでおり、今後の青少年の発達や、社会参画していくことに深く関わっていくと思った。本協議会の場で皆さんの意見を聞くことができて、とても参考になった。また、今後の自分の立場でも生かしていきたい。</p>
こども家庭部長	<p>任期の終わりにあたり、事務局を代表して一言お礼を申し上げる。本協議会の任期の始まりは令和5年4月でちょうどこども基本法が施行されたタイミングである。またその年の5月には新型コロナウイルス感染症が5類に移行するなど、社会全体の状況が大きく変わっていかうとしている時期であった。そのような中で、委員の皆様はこの2年間、御多用にもかかわらず小平市のこども・若者施策、また小平市こども計画の策定などについて、それぞれの専門的な知見や経験から、熱心にご審議をいただき、また貴重なご意見をお寄せいただいたことに深く感謝申し上げます。市としてはまだ課題があることも十分承知はしているが、現状としては各種こども・若者施策を着実に推進できたものと考えている。こども計画の策定はまだ途中の段階であるため、市では引き続きこども・若者から様々な意見を聞き、対話をしながら、より実効性のある計画</p>



	<p>となるよう取り組んでいくが、委員の皆様にも、これまでと同様に市のこども・若者施策にご意見、ご関心をお寄せいただくとともに、それぞれ所属の団体におかれましては引き続き、市のこども・若者施策にご理解・ご協力をいただけると幸いです。</p>
--	--